

空室情報

●タウンコレクティブ南小岩 (TCみなこい)

居室1: 和室6畳+1.5畳収納 家賃 6.7万円 (即入居可)
居室2: 洋室5.5畳 (クローゼット付) 家賃 4.9万円 (即入居可)

所在地: 江戸川区南小岩1丁目
共用部分: リビング、ダイニングキッチン、バス、トイレ、庭
最寄駅: JR総武線 小岩駅より徒歩18分、都営バス停より徒歩3分 (錦糸町行きなど)
共益費など: 居住者組合で決めて運営、居住者で分担



お知らせ

居住者のブログ・FB・インスタグラム
実際の暮らしの様子はコチラから
スガモフラット
<https://blog.goo.ne.jp/sugamos2014/>
<https://www.instagram.com/sugamons212/>
コレクティブハウス聖蹟
<https://www.facebook.com/ch.seiseki/>
コレクティブハウス大泉学園
http://blog.livedoor.jp/ch4_oizumi/
タウンコレクティブ南小岩
<https://www.facebook.com/tc.koiwa/>
https://www.instagram.com/minami_koiwa

その他の空室情報はこちら



目白オフィス 毎週木曜午後は OPEN DAY

会員のみなさんにお気軽にお越しただけるよう、毎週木曜午後はオフィスオープンデーとしています。事務局メンバーがおりますので、お話をしながら、関連書籍や資料などもご覧いただけます。目白にお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

※事前に事務局までご一報ください。
TEL: 03-5906-5340 / E-mail: info@chc.or.jp



Facebookページも公開中!

発行 / NPOコレクティブハウジング社 (CHC) ホームページ <https://www.chc.or.jp/>
〒194-0032 東京都町田市本町田1143-1 まちのもり本町田2202
TEL: 03-5906-5340 FAX: 03-5906-5341 E-mail: info@chc.or.jp

これこれ新聞 vol.36
定価200円 (税込)
定期購読2,000円 (年間/送料別)

どこに住もう? 誰と住もう? どんな暮らし? イメージが湧かなくても、理想を抱いていても、昭和の一軒家に住んでみませんか?
タウンコレクティブ南小岩は、全員参加の共生の住まいを目指しています。陽当たりや風通しのよい家です。
空き室の和室には押し入れが、洋室には備え付けの箆笥クローゼットがあります。冷蔵庫や洗濯機ネット環境など必需品はありますが、快適な生活に必要な物事があれば、共同で揃える提案もできます。
決まりごとは少ないし、変えられるので、話し合みましょう。移動には自転車便利です。もうすぐジャガイモの収穫。

初のオンライン開催 第10回 CHC定期総会が開催されました

6月21日、コレクティブハウジング社の第20回定期総会が開催されました。今年はCovid-19の影響により、オンライン開催という初の試み。定刻には計21名 (目白会場にマスク着用で席を遠くに離して集まった理事6名と、自宅など会場外から接続した15名) がZoomでつながりました。

議長は宮本代表理事。第1号議案「2019年度の活動報告・決算報告」、第2号議案「2020年度の事業計画、予算案」はいずれも速やかに承認されました。第3号議案は、今年稼働した「コレクティブハウス本町田」へ事務所移転。慣れ親しんだ目白からの移転は、本町田稼働とともに、CHCの新展開につながりそうです。第4号議案「役員を選出と承認」では現任メンバーが継続することに。

休憩を挟んだ後は交流会として、稲見直子先生による論文『コレクティブハウジング居住を通じた親の社会化とその要件』発表会。CH聖蹟を長年にわたってフィールドワークした成果への注目度は高く、発表後は活発な感想会となり、静かな熱気のうちに閉会しました。(理事 大島由起雄)



総会の舞台裏。理事だけの会場、会員はオンライン参加

「投稿コーナー」投稿募集

「これこれ新聞」では、話題にしてほしい記事を読者の皆様より募集しています。投稿はこちら↓
ペンネームを添えて、collecollego@gmail.com まで。

「これこれ新聞」編集サポーター募集!

これこれ新聞編集部では写真を撮ったり、記事を書いたり、アイデアを出してくださる、サポーターを募集しています。
collecollego@gmail.comまでご連絡ください。

【編集後記】いよいよ町田にも新たなコレクティブハウスが完成しました。入居前に新しい建物に入って実際に寸法を計っていると、まるで上京した新卒の新入社員のような、もうすぐ新生活が始まるという少し懐かしい感覚になります。(編集部員O)



隔月刊 CHC これこれ新聞

コレクティブハウスとは:
1970年ごろから北欧で始まった暮らし方です。女性の社会進出や自立に伴い、子育てを助け合ったり、家事の一部を共同で行うことなどによって、孤立せず安心できる暮らしを作り出そうと始まったものです。現在、世界的には、欧米諸国を中心にひとつの居住スタイルとして定着しています。

コレクティブハウス本町田 新生活、はじめました

組合設立しました! (しかもZoomで)

えーわたくし。コレクティブハウス本町田の代表者となりました。コレクティブハウス本町田のワークショップが始まったころは去年の暑い季節でした。3つの季節を経て、沢山話し合っ、ここまで来たわけですが、今のこの状況はまったく想像していませんでした。まさかこんなことになるとは! 2m以上近づくな! って、人の営みとしてそれは無理っっちゃうもんです。

そんな中、ネットコミュニケーションが流行り、YouTubeも「おうちで〇〇」が溢れています。こんな状況を経験すると、生で体験することの大切さを反対に思い知らされました。一人で暮らしている上に、在宅勤務で自宅に勤務。そんなことになると、一日、一言も言葉を発せず、キーボードを叩いて連絡を取り合うなんてことになってしまうわけです。在宅勤務はまだ社会の関わりがあるから良いものの、リタイアした方が一人暮らしで、一言も言葉を発しない状態でテレビを見つめているとしたら……。

最近、コレクティブハウスに住んで思うことは、なにも特別なことではないという事、集合住宅には組合はあるし、隣近所があるし、ただ一つ違うのは、自分たちがやる。自分たちが行動をすることです。人任せにしないことです。人と関わりあって、当たり前のように挨拶をして、世間話をして、時々、まじめな話を。自分の生活を、人生を、楽しんでいきたい。(居住者M)

太陽と鐘と小鳥と星に願いを

引っ越して早起きになりました。東向きの部屋で強烈な朝陽パワーに驚いて寝ていられたなかったと言う方が正確かも。ここは古代ギリシャの民になって偉大なアポロンに向かって合掌です。6時にどこかの寺の鐘が鳴りわたります。ごーん。夕方5時半にも同じ鐘が鳴るのですが、朝の空気を伝えてくるとなぜか音色が違う。スカッと冴えています。鐘をつく坊さんの涼しげなツルツル頭を思い浮かべ、敬虔な祈りを捧げます。鐘よりもずっと早くまだ暗い頃から鳥たちのさえずりが。夢の中で聴いているとなかなかにぎやかです。小鳥のことをアイヌ語で「チカッポ」と北海道の知人に教わりました。寝床の中で小鳥の神さまチカッポカムイ? に向かってうやうやしく手を合わせ…なんてことはしてないです (笑)。

人生いろいろ、引っ越しを重ねてきました。木造アパート、公団、長屋のような住宅、学生寮、下宿、一軒家…思えば色々な住ま



さっそく緑のカーテンづくりしました

4月から居住がはじまったコレクティブハウス本町田では、居住者有志 (といっても全員なのですが)、5月31日に「緑のカーテンプロジェクト」と題し、みんなで園芸作業を行いました。

今回植えたのは、緑のカーテンではお馴染みのゴーヤ、そして今ではとても珍しいヘチマ、さらにはたまごゴーヤを買いに行く予定が、売り切れで急ぎ買った西洋朝顔2種類の計4種類 (結局



局ゴーヤは別の店にありました)。作業の多くは網の取り付けで、他の方のやり方を真似て何とか完成。

そうして約1か月でこんなに大きくなりました。1階と2階で何でこんなに違うかですか? それはテキトーな手入れをしていた筆者Oと、基本的に忠実な作業をする居住者Kの違いだと思いますよ。

いに住んできた…。そしていまご縁をいただいてコレクティブHにやって参りました。思ってもみなかったコロナ問題の真っ最中に。引っ越しのさなか、一冊の本を「発見」しました。20代の頃に心ひかれて読んだ本です。

『こんな家に住みたい+絵本にみる住宅と都市』延藤安弘著 晶文社 1983

モノクロながら写真とイラスト満載の本に「集まって住むことは楽しい」という一章があり、イメージをふくらませてくれそうな絵本がいくつも紹介されていました。おもいおもしろい生活があってそれが自然に外にあふれ出て交わっている、という感じでしょうか。ここ本町田での暮らしは始まったばかり。住人どうしの関わり合いも何もかもこれからです。集まることはもちろん、行ったり来たり往来することさえ問題になる時代に、はてどんな楽しさを見つけ重ねていけるでしょうか。今日は七夕。厚い雨雲のはるか向こうの星たちに思いをはせます。明日天気になーれ。(居住者K)

ウィズコロナ時代の暮らし

新型コロナウイルスの影響を受け始めてから早や半年。各コレクティブハウスの暮らしは、何が変わり、何が変わらなかったのか、各ハウスにレポートしてもらいました。

コレクティブハウス大泉学園

コロナ禍のなかでのコレクティブハウス入居

4月20日、緊急事態宣言中の引っ越しにもかかわらず入居早々全員からそれぞれ声をかけていただき、新しく始まった生活上の不安は全くありませんでした。でも、3ヶ月経ちまだミールを数回食べただけ。皆と一緒に何かすることがこれからはしばらく難しい



CH大泉学園の屋上から眺める夕焼け

のが何とももどかしいですが、少しずつこのハウスに溶け込めていければいいと思います。

左の写真は何てことはないコモニールームの誰もいない風景ですが、この左手前の席に座ってパソコン作業をしていると、キッチンを利用する人や通路奥の玄関や部屋の出入りまで見えて誰かしらと何気ない会話ができる、コロナ禍だから気づけた私にとっては大切な場所です。(新居住者N)

コレクティブハウス聖蹟 (前編)

こどもびじゅつかん

2月末から休校、リモートワーク、保育園も登園自粛。いつもだったらGWどうしようかな、とウキウキしてたけど、今年はどこへもいけない。そうだ、子どもたちの作品の整理をしよう!と思いたちました。

でもただ仕分けして捨てるだけじゃもったいないので、ハウスの皆に見てもらおう!というか他の子の作品も募って、『こどもびじゅつかん』しない?と娘に提案。娘には『こどもびじゅつかん』の看板と『順路』を書いてもらい、私は保育園時代~小学生まで時代別に作品を並べ、立体的な物はどう飾ろうか、とか色々考えながら展示しました。

今の小学生ってこんなことやってるのね、表現がいいね、と居住者からの反応も概ね好評で、普段は何の飾りもないコンクリートの壁が、子どもたちの色とりどりの作品で鮮やかに彩られました。

当初は1週間位で片付けようと思っていたけど、何だかんだで1ヶ月以上飾らせてもらいました。途中何度も剥がれた作品を、いつの間にか貼り直してくれる居住者もいました。その気持ち嬉しくて、娘と「ありがとう」とお礼にお花をプレゼントしました。顔を合わせてのやり取りの機会は減っていた時期だったけど、『こどもびじゅつかん』を通して、大人も子どもも少しだけホッとした時間を持てたように思いました。(居住者〇〇)



【CHC事務所移転のお知らせ】

目白事務所、7年間ありがとう。「まちのもり本町田」事務所、これからよろしくね。

新事務所：〒194-0032 東京都町田市本町田1143-1

まちのもり本町田2202

移転日：2020年8月1日～

豊島区居住支援モデル事業を実施を契機に、豊島区目白に拠点に移して7年。この間、全国的に空き家問題が深刻化する一方で、思うように住宅を確保できない人々が増加するなど「居住支援の必要性」が注目されてきました。CHCにとっては、東京都の居住支援法人の登録や、国土交通省の補助事業実施など、居住支援を軸とした行政との協働事業の経験を積んできた7年間でした。この3月、株式会社コプラスとの協働により「コレクティブハウス(CH)本町田」をオープンしました。CH以外の居住者との共同性を内包する「まちのもり本町田」は、これまで以上にさまざまな可能性を持ったプロジェクトです。

「まちのもり本町田」として1つの自治会を作り、町内会に加入する他、市や社会福祉協議会、地域包括支援センター、地元NPO、大学など、暮らしを豊かにする様々な人々とつながる可能性があります。そのような暮らしの現場に拠点をもちながら「コレクティブハウジング」の可能性を拓いていくこと。今回の「まちのもり本町田」への

移転は、そうしたCHCの新たな挑戦の一歩です。(代表理事 宮本諭)



CHCの活動 (2020年4月～7月)

<3月>

3月にはCOVID-19が広がり、多くの人が集まりづらくなってきました。CHC主催の「まちのもり本町田」のオープンの見学会も、近隣の方と会員だけのお誘いとなりました。

3/12 まちのもり本町田事業主(コプラス) 主催完成見学会

3/13 第四回理事会

3/21 まちのもり本町田CHC主催完成見学会

※コレクティブハウス聖蹟の居住者有志の方にキッチン利用のデモを行っていただきました。

<4月>

4/7に東京で緊急事態宣言が出され、ほとんどの会議がオンラインになりました。各ハウスの定例会も、全員自室でオンラインでつなぎ開催しました。4/12には「コレクティブハウス本町田」の居住者がはじめて入居契約をオンラインで行い、その午後に、居住者組合を設立しました。見学会、ハウス訪問は中止しましたが、「まちのもり本町田」の建物見学については、1回の時間帯を区切って一組ずつ対応しました。

中旬には、就労支援の一環としてあった一時的な家賃補助「住居確保給



【寄稿】一人一人の違いを尊重するコレクティブコミュニティ ～コロナ禍中でも活きる暮らし方～ コーディネーター 狩野三枝

今回の新型コロナウイルスの危機が、どのように私たちに迫ってきて、各ハウスはどのようにその不安な状況に対応したかを振り返るために、3月頃からのメールを見返していました。

2月3日横浜港に入港したクルーズ船の乗客がCOVID-19陽性であることが検査によって判明したのが2月5日です。今思えば、最初是对岸の火事のような心持ちで聞いていたように思いますが、船内の感染拡大に伴って、感染力の高さや潜伏期間の長さ、死に至ることもある一方で、感染しても発症しない人がいること、発症しなくても感染させる危険性があることなどが分かってきて、じわじわと不安が芽生えたように思います。その後、中国経由の第一波は押さえ込みができたものの、既に感染拡大していた欧米経由の輸入症例(3月中旬～)で、日本での感染が拡大、4月7日にはとうとう東京都に緊急事態宣言が出され、外出自粛の日々が始まり、結果的に5月25日までの49日間の自粛となりました。

新型コロナウイルスの感染防止については、実に一人一人、自分自身がどう振る舞うべきか、ある種の客観性をもって判断することを迫られます。人に感染させない、自分も感染しない…誰もがそうしたいでしょう。しかし、日常的に社会で果たしている役割(仕事)で、防護策をとりにくい人たちもいますので、一人一人事情が違います。また、基礎疾患や年齢、感受性や考え方もそれぞれです。さらに、都心と郊外では、敷地内の余裕や通勤距離一つをとっても、立地によって随分違いますので、それぞれ心配なことが異なります。市販のマスクや手指用のアルコール消毒液も手に入らなくなったことも、人とのつながりを大切にしている暮らしに大きなストレスを生みました。

しかし、このような状況になって、より確信したことがあります。誰もが小さなコレクティブコミュニティの中で、感染者になりたくないという思いは強かったと思いますし、それだけに、最初は大きなプレッシャーを感じた人もいたと思います。

それでも、誰もが快適に暮らすためのコレクティブコミュニティの文化が、次第に本領を発揮していきます。実は、日常的に大切にしていることなので、居住者にとっては特別なことではありません。

- ① 考え方や感じ方は一人一人違うから、それぞれの思いや意見を率直に出し合う
- ② ある方向性をみんなで共有したら、あとは個々で選べるやり方を考える
- ③ 人はいつも同じ気持ちや状態にいるわけではない。人の気持ちの変化にも寛容に対応できる方法を考える

しなやかだからこそ強い。それは日常の関係性の積み重ねと信頼関係の賜です。

上記のことについて、あるハウスでのコモンミールの具体的な運営を例に挙げてみます。共同の夕食づくりを何とか続けていきたい人、十分な注意を払って料理をするなんてできないという人、自分は仕事柄感染リスクが高いので人にはつけれないという人、子どもが生まれたばかりで感染が心配な人、つけれないけれど食べるだけでもいいかなど、すべての居住者の状況と意思を共有し、調理方法などのガイドラインを作って運営を続けることにしました。しかし、どれだけ人につくことや自分が食べることに今ではできないと思っていても、「やっぱり作りたくなったのでやります」「やっぱり食べたいです」と言えることは、全体の仕組みとして運営することを全員で決めたからに他なりません。ここに、住民自治(自主運営)の優しさの可能性があると、改めて感じた出来事でした。

今後もコロナと共に過ごす生活が続きますが、コレクティブハウスの居住者の皆さんが、次にどんな工夫を見せて下さるか、少し不謹慎ではありますが、密かな楽しみです。

(コーディネーター 狩野三枝)

見学会とハウス訪問はオンラインで行うことを決め、ハウス内の見学会に居住者がビデオ撮影などをしてくださる第一回のお試し開催をしました。見学会に参加された方からはとても好評いただきました。当日、見学対応をして下さる居住者は自室でオンラインをつなぐため、子どもが家を行き来している感じが垣間見られ、普段の見学会とは違った良さもあります。また、地方から参加される方も気軽にご参加いただけるので、今後も続けていきたいと思えます。一方、住みたい方の見学であるハウス訪問については、雰囲気などを肌で感じることはできないため、やはり課題が残る感があります。

<7月>

7/7 目白オフィスの荷物を、レンタカーで自前で町田まで運搬

7/2、7/9 取材対応

7/11 「まちだ自然エネルギー協議会」の方々の活動のガイダンスをコレクティブハウス本町田の居住者とCHCがオンラインでうけました。今後のイベントコラボ企画などの相談も。

7/14 町田の子育て冊子「らぶぶあみ」のスタッフの方々に、「まちのもり本町田」をご案内し、コンボのコラボレーションについて相談。

付金」の対象者が、失業者だけでなく失業するかも知れない人に対しても補助されることが決定されましたが、役所の窓口で相談に行き、実際給付を受けることはなかなか難しい制度と感じました。

<5月>

「コレクティブハウス本町田」の居住者募集のために、緊急事態宣言中にもかかわらず、webやSNSの整備にあてました。事業主のコプラスが、コモン付賃貸をセーフティネット登録され、4住戸をセーフティネット住宅として募集開始しました。

コーディネーター養成講座も後半戦を迎え、4月は休んでいましたが、5月にはオンラインで再開しました。

オリエンテーションもオンラインで対応することをHPで公表し、申込みして下さる方が増えました。

5/16、24には、コレクティブハウスとタウンコレクティブに暮らす働き盛りの单身の方に声を掛け、5つのハウスの居住者13名が参加、それぞれのハウスの状況や個人の方々の状況についてやりとりをしました。

<6月>

6/21にCHC第20期総会を開催(4Pに報告あり)

5月末に緊急事態宣言が解除され、町田の見学については、一組毎の見学対応に申込みが増えました。